

日本国際連合学会第 20 回（2018 年度）研究大会プログラム

共通テーマ：「集団安全保障体制を再考する－ 軍縮をめぐるガバナンスの可能性と制裁の実効性」

核兵器禁止条約の採択、核兵器不拡散条約（NPT）50周年を迎える中、核廃絶・核軍縮の可能性が盛んに議論されている。その一方、北朝鮮の核をめぐる問題は予断を許さない状況にあり、シリアでは度重なる化学兵器の使用が深刻な問題である。軍縮問題をめぐって、より拘束力のある制度構築を目指す動きと現実主義的な視点とのバランスをどのように考えるか。奇しくも第一次世界大戦終了から 100 年となる本年度の研究大会では、昨今の軍縮をめぐる問題を通して、国連の集団安全保障体制を再考する場としたい。

日時：2018 年 6 月 30 日（土）10:00～18:00（受付開始：9:30）

会場：東海大学高輪キャンパス 4 号館 4201 教室

受付：4 号館 4201 教室前

住所：東京都港区高輪 2-3-23

10:00～10:10 <開会挨拶>

神余 隆博（日本国際連合学会理事長、関西学院大学 教授、国連・外交統括センター長）

10:10～11:10 <基調講演>

基調講演者： 黒澤 満（大阪女学院大学 教授）

「軍縮と集団安全保障及び核軍縮の課題」

司会： 神余 隆博

11:20～13:00 <パネルディスカッション> 「軍縮をめぐるガバナンスの形成と国連の役割」

司会・モデレーター：庄司 真理子（敬愛大学 教授）

パネリスト：河野 勉（国連事務局 上級政務官）

「国連の視点から」

佐藤 丙午（拓殖大学 教授）

「軍縮・不拡散をめぐる安全保障環境の視点から」

広瀬 訓（長崎大学 教授）

「軍縮・不拡散をめぐる国際制度の構築について」

目加田 説子（中央大学 教授）

「市民社会からのアプローチについて」

山本 武彦（元対北朝鮮制裁パネル委員、早稲田大学 名誉教授）

「実務者の視点から」

13:00～14:30 昼休み 企画・渉外・編集・広報委員会開催

14:30～16:00 ≪研究報告≫ 「集団安全保障体制における制裁の実効性」

司会： 山本 慎一（香川大学 准教授）

報告者： 鈴木 一人（北海道大学 教授）

「集団安全保障体制における制裁はイラン核合意をもたらしたのか」

丸山 政己（山形大学 准教授）

「狙い撃ち制裁の実効性—国際法の観点から—（仮）」

討論者： 本多 美樹（法政大学 教授）

16:10～17:20 ≪若手独立報告≫

司会： 清水 奈名子（宇都宮大学 准教授）

報告： 田中 翔（大阪大学大学院）

「難民の主観的領域から見た移動および居住の自由—ザンビアにおける庇護国定住プログラムが難民の生計活動に与える影響—」

小野坂 元（東京大学大学院）

「日中戦争、第二次大戦期の国際労働運動とキリスト教社会主義ネットワーク—IFTU, ILO, YWCA の連携—」

17:20～18:00 総会

18:15～20:00 懇親会 於：高輪キャンパス学食

* 会員以外の方にも傍聴いただけます。事前申し込みの必要はありませんので、当日受付で傍聴料 500 円をお支払いください。